

INTERVIEW 後藤新平記念館長に聞く

困難な場面で求められた新平
後ろ姿を見せ部下を引っ張る

統治に苦戦する台湾、汚職で幹部らが辞職した東京、関東大震災からの復興——。困難に直面した場面でこそ新平が求められました。この検疫事業でも「この大事業をやるのは新平だ」と外堀を埋められ、やらざるを得なくなってしまう。ここでの成功が、相馬事件で厳しい状況に置かれた新平を表舞台に立たせるきっかけになりました。

新平は、ろくに睡眠も取らずに陣頭指揮を執り、検疫事業に当たりました。部下に厳しく接することもありましたが、命懸けで働く検疫兵の給料や弔慰金を戦地と同様にしよう上に働き掛ける配慮も行っています。そういう姿勢や心意気を見せることで、検疫兵もついて行こうという気持ちになり、事業の成功につながったのだと思います。

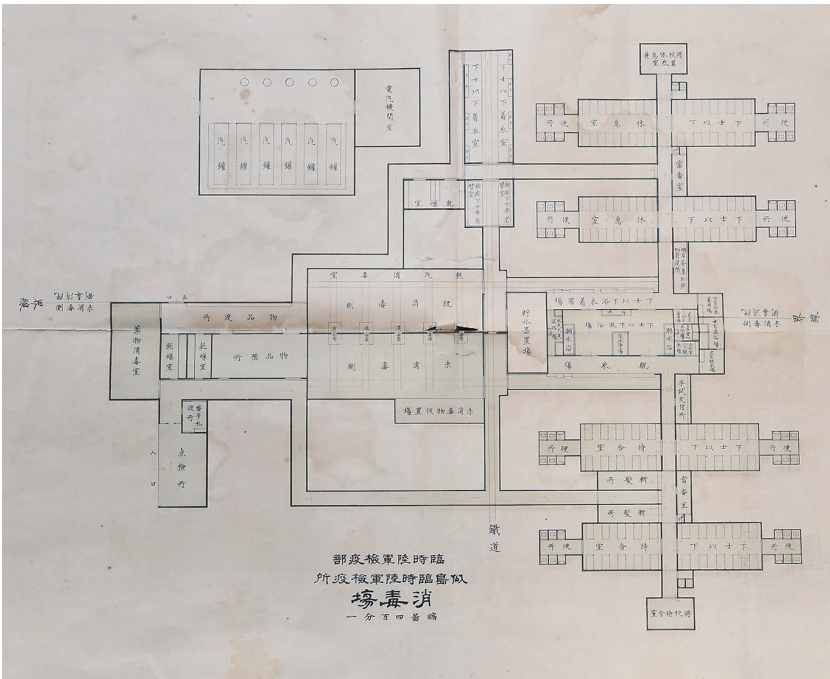
新平はこの後、検疫事業の功績によって衛生局長に復帰します。児玉との出会いも検疫事業でした。新平は児玉に認められ、後に台湾の民政長官として東京以上の近代都市づくりにまい進していきます。新平の実務能力の高さを内外に知らしめたのが、この検疫事業だったと言えるのではないのでしょうか。



後藤新平記念館
佐藤彰博 館長

検疫所は10月末まで開かれていましたが、忙しかったのは6、7月の2カ月間でした。検疫した船舶は687艘、検疫者数は23万2346人という先例のない大規模なものでした。しかも、検疫所通過後に発症した人の割合は、わずかに0・02%という素晴らしい成果を挙げたのです。

役目を終えた新平は、あまりの激務で別人のように衰弱しました。そんな新平をねぎらった児玉は「これは君の月桂冠だ」と言い箱を渡します。箱には新平の悪口が書かれた電報が詰まっていた。児玉は、そんなそぶりも見せず新平の盾となっていたのです。



帰還兵向けの「臨時陸軍検疫所消毒場案内」。誰でも分かるよう、未消毒部分の色分けや、漢字のルビなどの工夫が施されていた。

大本営運輸通信長官の寺内正毅は「1日5、6千人を消毒する計画と聞いていたが誤りか」と電報で問い詰めます。新平は「所員が作業に慣れて、全ての問題が解決すれば達成可能」と強気で返信しました。実際、6月中旬には問題も解消。計画に近い実績を残し、正しさを証明しました。

梅雨の時期と重なったことによる悲劇も起きました。6月末に帰港した白山丸は、雨と高波により換気ができない状況下でコレラ患者が発生。吐しゃ物で船内が汚染され、多数の感染者が出たのです。

世界からの賞賛

総患者数は303人、うち70人もの兵士が故郷の土を踏むことなく亡くなりました。

新平は、北里が所長を務める伝染病研究所から、治療部長の高木友枝を呼び寄せます。高木は、6頭の馬を使ってコレラ血清を製造。世界で初めて実践投入し、多くの患者を治療しました。

新平は、天皇陛下に謁見し、検疫事業を報告するという榮譽にもあずかりました。また、ドイツ皇帝は「日本は偉いことをやるな。日清戦争後の検疫の手際には感心した」と賞賛の言葉を贈ったそうです。

新平は「いくら国が衛生制度を完備しても、民衆に衛生への理解と自覚がなければ、完全ではない」と訴えました。

新型コロナウイルスで世界中が苦しむ中、100年以上前の新平の言葉は私たちの胸に刺さります。最前線で働く現代の新平たちのためにも、一人一人が感染症を正しく理解し、予防に努めることが大切なのではないでしょうか。



新平と共に闘った検疫所の所員たち



児玉源太郎

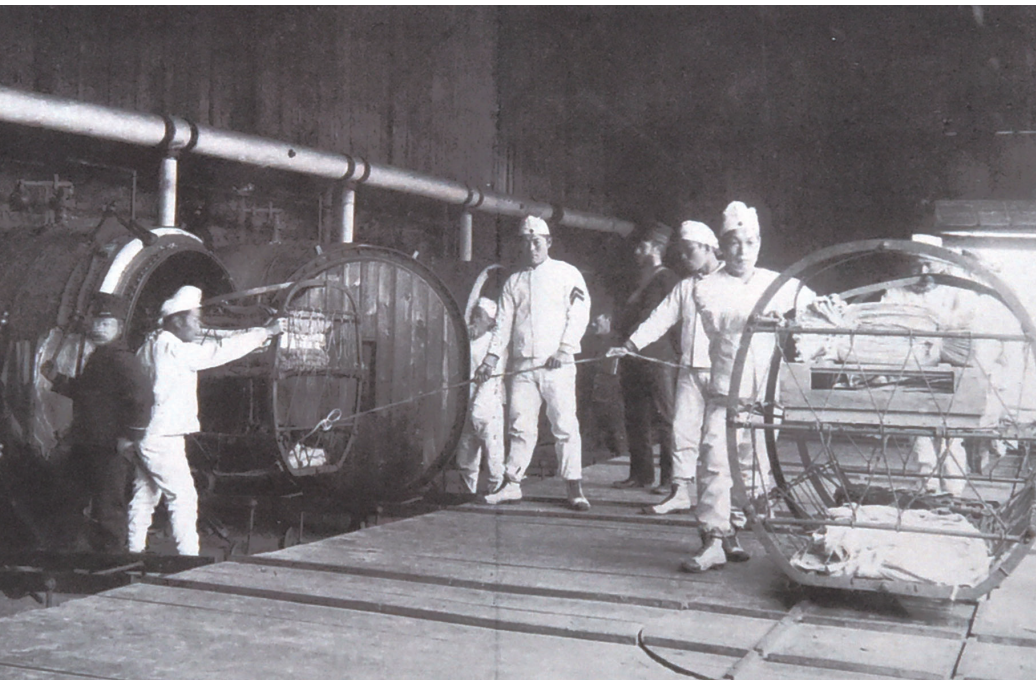
新平は、検疫作業を8科に分類し、順序立てて整然と行われるようにしました。船が入港すると検疫官が乗り込み、伝染病患者や死者の有無を確認。小舟で兵士や荷物、患者などを陸揚げします。患者は隔離病棟へ送られ、健康な者は消毒風呂で沐浴を行います。衣類、持ち物は大蒸気消毒汽缶や薬液で消毒。消毒を待つ休息室には、お茶や菓子、新聞、雑誌が置かれ、快適に過ごせるようにしました。

一方、少しでも病汚染の疑いのある船舶は、汚染の範囲に応じて消毒を行います。

遺体は火葬され、汚染された物は焼却処分することにした。消毒を済ませた兵士は、検疫所を離れることになりましたが、船内に一人でも発病者がいると、停留所に留め置かれます。停留の日は5日間。その間に発症者が出れば延長されるといふ仕組みでした。

6月に入ると、帰還兵を乗せた船が検疫所に押し寄せました。しかし、ここで突貫工事のつげが生じます。似島で、大蒸気消毒汽缶が故障。電気工事遅れ、計画どおりに受け入れられなくなったのです。

押し寄せる船と兵士



大蒸気消毒汽缶を用いた消毒作業の様子。検疫兵は昼夜二交代制で業務に当たり、蒸気の炭火が絶えることはなかった。消毒した物の数は64万個にも及んだ。

INTERVIEW 総合的な学習の時間に新平について学んだ水沢小学校の子どもたち

行動力と気配りの大切さ

新平の、大風呂敷と呼ばれるぐらい素晴らしい計画を思い付くこと、それを実践する行動力がすごいと思いました。検疫はスピーディーだったし、検疫担当や近隣住民にまで気を配っていたところはさすがだなと思いました。

水沢小学校6年生
立野唯仁 さん



人々を守るという気持ち

後藤新平記念館に行って勉強し、自治三訣*やポストを赤くしたことなどを壁新聞にまとめました。新平の人々を守りたい気持ちが分かったし、今コロナウイルスが流行しているので、当時の人たちの気持ちもとても理解できました。

水沢小学校6年生
辻山優音 さん



*「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そしてむくいを求めぬよう」という新平の言葉